

仏教と日本の文化

山北林

私ども日本人の大半は、生れながらにして、

仏教大國日本に育ち、無意識のうちに仏様とは切っても切れない深いつながりを持つようになりました。仏教から受ける有形無形の恩恵はいわば空気みたいなもので、知らず知らずのうちに私共の身体にしみ込んでいて、はっと気のつくことが度々あります。

例えば、私共の日常生活の中にとけ込んでいる生活習慣、或いは普段無意識のうちに使っている言葉や格言を考えてみますと、これが仏教經典の中から生れた日本語かと、驚くことが度々あります。

即ち、ぶつちやうら仏頂面、断末魔、韋駄天、大往生等、

或いは格言として、「地獄の沙汰も金次第」「袖振れ合うも多少の縁」「禍を転じて福となす」等、あげればきりがありませんが、これらはどなたも、自然に身についたものであります。

ご承知の通り、仏教は今から一四五〇年の昔欽明天皇（五三八年、一説には五五二年ともいわれております）の時代に朝鮮半島南部の百濟くだらの国の聖明王によって日本に伝えられました。以来、幾多の名僧高僧によって素晴らしい発展を遂げ、尊い教えと数多くの仏教文化が開花したのであります。今回は特に仏教文化のうち一

部について申し上げます。

一、入浴

仏教文化のうち、私共の日常生活の中で最も感謝すべきは入浴を教えてくださいました。私共は普段生活習慣の一つとして入浴をしていますが、これこそ伝来と同時に日本人に伝えられた恩恵の一つです。

伝来当初は、仏様にお仕えする出家僧侶の方々はお湯で身体を清め、仏様にお仕えしたのですが、一般在家の信者に対しては、施浴といつて入浴を奨励し、身心を清め仏様を拝むと同時に病気の予防、治療、清潔を保つことによって体調を整えるように指導したのが始まりです。伝来後間もなく聖徳太子が建立した大阪の四天王寺は信者の治療等を主体にした寺院で、院内には施薬院、治療院、養老院、施浴院を作り、病気の者或いは貧困にあえぐ人達を救済されたのであります。



また、箱根権現の境内には、神仏混淆時代の金剛院（真言宗）の跡に湯堂がはつきり残っており、入浴といつても、当初は大変戒律がきびしかったため、男子は下帯をしめ、女子は腰巻をして入浴したといわれております。その後、江戸時代の元禄年間（三〇〇年位前）になると、江戸の町に銭湯といわれる風呂屋が開業し、お金を払って入浴するようになりました。

この時から浴槽の汚れを防ぐため裸で入るようになった訳です。やがて、明治時代に入ると欧米思想の影響を受けて男女混淆がやかましくなり、現在のように別々となりました。但し法律できめていないため、ひなびた温泉地等には、昔同様混淆の風習が残っています。

二、日本語

普段何気なく使っている日本語は、会話、言葉、格言等その約七〇％は仏教語なのです。何れも仏教経典の中から使用されたことは驚くば

かりです。思いつくまま、各分野に分けてその一部を列挙してみます。

(一) 食物、料理等

納豆、善哉、沢庵、隠元、豆腐、五穀、般若湯（智水）、精進料理、懷石料理、もつそう飯、油揚げ

(二) 着物、衣類等

法被、袷纏、帽子、白衣、蒲團、手布（手拭）、袈裟、頭陀袋、阿弥陀にかぶる

(三) 住居、建築等

玄関、連子窓、書院、床の間、棚、普請、暖簾、瓦、塔、方丈、灯笼、雪隠、講堂、庫裡、本堂、炬燵、行火、行灯、観音開き

(四) 道具、家具等

旗、幟、扇、花瓶、香炉、燭台、行季、半鐘、鐘樓、柩、琵琶、位牌、楊子、佛像、茶碗、手水鉢

(五) 年中行事等

十二支、破魔矢、節分、彼岸、お盆、盆踊り、縁日、除夜(大晦日)、寒稽古、寒行、修行、精霊流し(灯笼流し)

(六) 病気等

医療、治療、入院、退院、病院、看病、
五体、布袋腹、血脈、投薬、病人、病床、
六根清浄(目、耳、鼻、舌、身、意(心))
日常生活等

(七)

からんどう、あなたまかせ、あまのじゃく、世話焼き、冗談をいう、可愛い、有頂天、急転直下、四苦八苦、畜生、愛嬌、
娯楽、道楽、歓喜、忿怒、無事、堪忍、
だらしなない、勘弁、懺悔、慚愧、邪慳、
奈落の底、行脚、獅子奮迅、しよつちゅう(初中終)、電光石火、物見遊山、招待、呵責、無分別、馬鹿、無念、挨拶、
未來、円満、引導を渡す、絶対、真実、

(八) 格言または教訓

光明、冥利、安心、工夫、開眼、依怙(いき)、人間、今生、有為転変、相続、金の亡者、頂戴、投機、遺言、火の車、せちがらい、不如意、融通、ごまのはえ、
他力本願、極楽、地獄

悪事千里を走る、鬼に金棒、三人よれば文殊の智慧、子は三界の首枷、楽あれば苦あり、知らぬが仏、聞いて極楽見て地獄、弱り目に祟り目、門前の小僧習わぬ
経読む、縁は異なもの

三、天文学、歴史、地理学

これらの学問は、仏教が伝来後五〇年して百済の高僧によつて輸入され、その後は、唐に留学した僧達によつて、急速に発展したという。当時の日食月食、彗星等の天文異変は恐るべき正確な記録が残されており。特に、天智天皇は青年時代から留学僧について、天文暦学を

学び(六六〇年)、今から一三四〇年前の昔、水時計(漏刻器)を作り、時刻を測定して梵鐘により、これを報知したことは有名であります。

四、美術工芸

仏像等の製作技術、或いは彫刻、絵画、書字等、何れも仏教伝来の時、多くの僧侶達によってもたらされたもので、当時の学識者は僧侶であり、技術指導は何れも僧侶であったという。

五、土木、測量、建築

日本人がまだ掘立小屋とか横穴住居ぐらしの時代に、素晴らしい寺院を建立したのを眼の前に見た時の日本人の驚きは如何ばかりだったことかと推察致します。

六、茶道、墨絵(水墨画)

両者は、何れも臨済宗の僧によって、日本に伝来した文化でその後日本人の手によって大成されたものです。茶道は、栄西禅師によって茶が輸入されて以来、千利休が完成させたといわ

れています。

また、墨絵は、同じく雪舟禅師によって開発されたといわれています。

七、食文化

何れも、仏教伝来以後、数多くの食品が輸入され、それに日本の気候風土に合わせて開発したものが多し。たくあん、味噌、納豆、豆腐、精進料理等。

山北 林

大正九年、浜松市に生まれる。海軍少年航空兵(予科練)として海軍軍人となる。勤務先／実施部隊は連合艦隊司令部付戦艦大和・陸奥・長門・金剛。第二艦隊司令部付巡洋艦島海、その他。教育部隊(教官)。

善光寺檀徒

